

科目名	アジアの子ども文化				
担当者氏名	山田 正人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 教養教育-1 国際社会に貢献できる人材育成 ○ 教養教育-2 豊かな人間性の醸成 ○ 教養教育-3 コミュニケーション能力の向上				

《授業の概要》

「子どもの権利条約」ができた背景を理解し、中でもアジアの子どものたちの生活にフォーカスして実情を知る。SDGsの内容について理解を深める。「子どもの権利」から広げて、様々な人権教育について学ぶ。アイスブレイキングや、アクティブラーニングの手法を使い、将来の教員としての実践に活かす。

《テキスト》

教科書は指定しない。

《参考図書》

その都度、プリントなどを配布。また、授業内で指示した本を課題図書として、教案づくりなどに活かす。

《授業の到達目標》

本講座は、「子どもの権利条約」を軸にしながら、アジアや世界の様々な国の子どもの実情をを理解し、子ども達の持つ文化的側面を理解することを目標とする。アジア諸国の子どもの教育課題などの事例を参考にしながら、子どもにとってより望ましい子ども文化を考察していく。日本もアジアの一員なので、日本の子ども文化についても触れていく。

《授業時間外学習》

授業内での発表のために、時間外でのグループ作業が必要な時もある。

《成績評価の方法》

第1回目の授業で、授業態度、毎回の振り返り用紙の作成、プレゼンテーションへの参加度などの評価方法を配布します。平常点（毎回の振り返り用紙）40% 課題の提出物（プリント・レポート類）40% グループプレゼンテーション 20%

《備考（教員経験の有無）》

プレゼンテーションなどをする予定である。積極的に参加する生徒の評価を高くします。教員になって目の前の子どもたちに対応するとき接するときの心構えなども伝えていきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション アイスブレイキング	年間計画 評価方法 人間関係トレーニング（アイスブレイキングなど） 課題図書の提示など
2	子どもの権利条約を学ぶ (1)	フリーザチルドレンの創設者のクレグのDVDを鑑賞。グループワーク。
3	子どもの権利条約を学ぶ (2)	カードを使い。様々な子どもの権利について学ぶ。
4	SDGsを学ぶ	SDGsを、新聞記事を通して学ぶ。
5	インドネシアの大学生との交流	zoomで、異文化交流。
6	子どもの声を聴く	フリーザチルドレンのクレグさん、マララさんのコクレンスピーチ、セバスチャン・スズキさんのスピーチなどを見て、気づきを得る。
7	100人村ワークショップ	子どもの貧困などについて学習する。
8	難民について	服のチカラプロジェクト、難民ゲームについて、今の世界の難民の状況について知る。
9	住居、食料から異文化を学ぶ	世界の国の文化を、写真から読み解く。
10	課題の解決について	起業家の山口さんの映像を見て、課題のとらえ方、解決の方法について、学ぶ。「あなたも〇〇になれる」のワークを通して、自分の夢を確認する。
11	「違いの違い」	それぞれのカードに書かれた状況は、「あってもいいこと」か「あってはならないこと」か グループ討議をする。様々な意見があることを感じる。
12	クロスロードゲーム	来るべき地震に備えて、様々なシュミレーションをし、市民の立場、行政の立場、ボランティアの立場を理解する。
13	国内にある様々な人権問題について学ぶ	外国人労働者の子どもたちの問題、障害のある子どもたちの問題、など、日本国内にある「異文化理解・多文化共生」の問題点を見つけ、解決法を考えてみる。
14	日本の小学校の「平和学習」について	過去の「戦争」は私たちに「幸せ」をもたらすことができたのか？事実を知ることや、外国の例を知ること、人権にどのような影響をもたらすのか考える。
15	「人権」の歴史	わたしたちの持っている「人権」は、どのように獲得されてきたのか学ぶ。